

## サステナビリティ関連標準と統合思考経営

～インタンジブルズを軸にした価値とインパクトの創造～

### セッション4 新しい国際標準におけるインタンジブルズへの着目 WICI の役割

#### モデレーター

住田 孝之 氏：住友商事株式会社執行役員 兼 住友商事グローバルリサーチ株式会社社長

#### パネリスト

Mario Abela 氏：WICI 会長

Jean-Philippe Desmartin 氏：WICI 欧会長

高橋 範江 氏：IFRS 財団 統合報告フェロー

前田 翔三 氏：JBCE(在欧日系ビジネス協議会)事務局長

7月からWICI会長に就任したMario Abela氏(Value Balancing Alliance)、WICI欧州の会長のJean-Philippe Desmartin氏(Edmund de Rothschild)、JBCE(在欧日経ビジネス協議会)事務局長の前田翔三氏(元経済産業省企業会計室長)、IFRS財団統合報告フェローの高橋範江氏をパネリストとして、WICI前会長であり、住友商事(株)執行役員 兼 住友商事グローバルリサーチ株式会社社長の住田孝之氏がモデレーターを務め、グローバルなディスカッションを行った(同時通訳あり)。

冒頭、住田氏より、欧州を中心とするルール化の動きとIFRS財団のISSBにおける標準化の動きにつきスライドを用いて説明。ついで、高橋氏より、ISSB内のConnectivity teamにおける統合報告領域の最近の活動状況と今後の方向につきスライドを用いて説明。

その後の議論の前半では、これら標準化、ルール化の動きについての論点を議論。各パネリストからは、欧州では数日前に開示基準(ESRS)の最終ドラフトが公表された(Desmartin氏)、インタンジブルズについてはより突っ込んだ作業が必要であるが加盟国ごとに異なるルールとなる可能性がある(Abela氏)、欧州基準(ESRS)でも、戦略・リスクと機会・ガバナンス・指標という整理がされておりこの点はISSBとズレはない一方、インパクト(社会・環境のサステナビリティへの影響)も見極め開示する必要がある(前田氏)、企業固有の価値創造の側面も開示推奨されている一方、生物多様性や汚染、労働条件など細かく設定された開示項目に答えるのみでは価値創造の側面の説明とはならないといったコメントがあった。

後半では、インタンジブルズに焦点を当て、WICI の役割などに関して議論。各パネリストからは、IFRS 財団では企業報告枠組み (Corporate Reporting Framework) を今後策定の予定であるが、現在はインタンジブルズのような長期的価値創造に関する項目が IASB では PJ として取り上げられる予定だが、ISSB のスタンスは未定である。仮に将来、Intangibles について IASB と ISSB の共同 PJ 化が実現された暁には、WIRF でのインタンジブルズの内容や例示などは有用なため参照されるとよい。内閣府のガイドライン含め、日本から自らが作っているツールをもっと海外に発信するとよい (高橋氏)、現時点ではインタンジブルズのごく一部しか組み込まれておらず、GRI の方がインタンジブルズを広く扱っている、WICI は KPI に関する提案をすべきではないか (Desmartin 氏)、WICI の KPI というリソースには GRI も関心を示しているし、インタンジブルズについてもグローバルな議論が必要で日本がリードすることに期待 (Mario 氏)、インタンジブルズと価値創造の関係はマネジメントレポートの中で明記すべき (前田氏) などのコメントがあった。

世界の標準化の中で、価値創造への着目とそのためのインタンジブルズの役割への理解を高め、日本に既にあるツールを含めて WICI のリソースをグローバルに発信していくことの重要性が幅広く共有された。